



Blue Yonder が聞いた サプライチェーン・エグゼクティブの本音

Blue Yonderによる
2024年サプライチェーン・エグゼクティブ・サーベイ
～SCM担当幹部調査レポート～から得られた知見 #2

ソリューションの開発において Blue Yonder は顧客の声を追求する

Blue Yonder は、毎年、担当幹部に対して調査を実施し、世界中のサプライチェーンチームのニーズを完全に把握し、付加価値のあるテクノロジーソリューションや配送モデルを提供することでそのニーズに応えています。

もちろんこの調査は、顧客との多くの個人的な情報交換を補完するものです。

当社は、年次イベントICON、ユーザグループ、顧客諮問委員会、顧客との1対1のミーティングを通じて、数百人もの主要なサプライチェーン担当幹部から直接話を聞いています。しかし、当社の顧客ベースを越えた先にある、グローバルな視点を獲得するために、この第三者機関による調査は非常に貴重といえます。

Blue Yonder の2024年サプライチェーン・エグゼクティブ・サーベイでは、製造、小売、サードパーティロジスティクス、政府機関の経営幹部と上級幹部 600人以上から回答が得られました。

回答者は、北米と欧州の8か国で、サプライチェーン戦略、計画、ロジスティクス、製造オペレーションを担当しています。

本書では、今日のサプライチェーンチームが直面している最も重要な課題について調査し、また、担当幹部がこうした課題を克服する方法についても詳しく説明しています。

本書では、Blue Yonder が顧客の緊急課題に連日対応する方法について知ることができます。業界で最も高度な機能を使って対応していますが、こうした機能は、現実世界のニーズに直接対応する中で開発されたものです。





サプライチェーンチームが直面している 最重要課題は明白

全く同じサプライチェーンは2つとありません。しかし、Blue Yonder の2024年サプライチェーン・エグゼクティブ・サーベイによると、世界中のサプライチェーンチームは共通の課題を抱えています。今年の調査で明らかになった上位3つの課題の概要は、以下のとおりです。

混乱が長期化

混乱が頻繁に発生し、それが長期化する状況を適切に管理することは、担当幹部たちにとって最重要課題です。Blue Yonder の2024年の調査では、84% の回答者が過去1年間にサプライチェーンの混乱を経験したと回答しています。これらの混乱の原因は、原材料の不足（幹部の48% が回答）、サプライヤーからの納品遅れ（47%）、労働力不足（44%）、輸配送能力の不足（41%）などです。

コストの上昇

調査参加者の約半数（46%）が過去1年間にコスト上昇による利益率の減少を認めています。米国の担当幹部に至っては、60% に及んでいます。物価の高騰は、主に材料コスト（回答者の43%が言及）、在庫コスト（15%）、輸配送コスト（14%）、人件費（14%）に影響を及ぼしています。

持続可能性への圧力

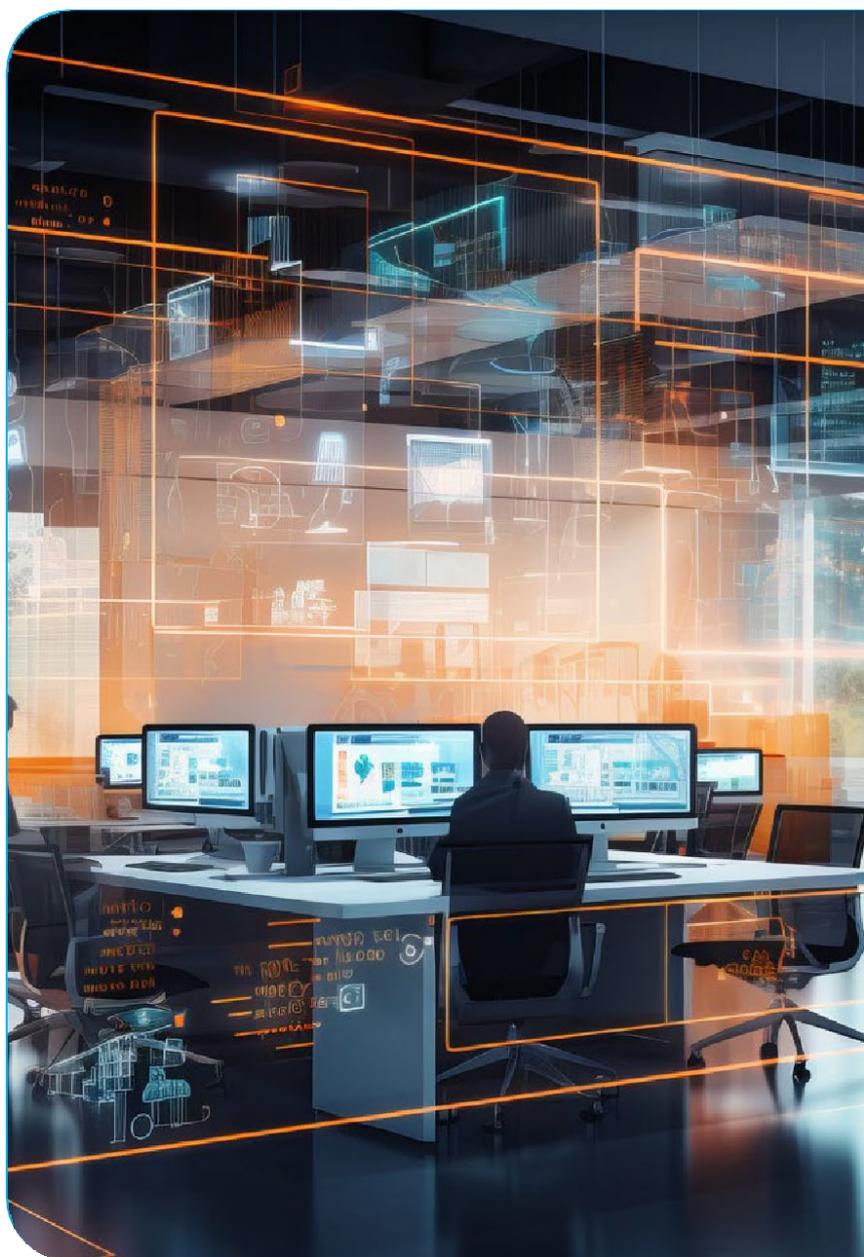
回答者の半数近く（44%）が、前年に自社で持続可能性の取り組みを強化したと回答しています。47% の企業は持続可能性への投資を継続しています。持続可能性の最優先事項は、製造、在庫、原材料、輸配送などで、廃棄物や過剰物を削減することであると、57% の担当幹部が言及しています。

課題を克服するための戦略も明白

サプライチェーンチームに共通の課題があることが明らかである一方、こうした課題への対処に同じ戦略を採用していることも明らかとなっています。つまり、高度なテクノロジーと関連ベストプラクティスに投資するという戦略です。回答者の 79% が、自社が前年にサプライチェーン投資を増加したと報告しています。半数を超える企業 (51%) がサプライチェーンの改善に1,000万ドルを超える額を投資しています。

投資を行う際の最大の焦点は引き続き、人口知能 (AI)、機械学習 (ML)、その他の高度なテクノロジーです。なぜなら、昨今のきわめて不安定なビジネス環境で利益を確保しながら対応するには、手動分析と人間の認知能力では、不十分であることが判明したからです。サプライチェーンチームは、混乱の管理、コストの管理、持続可能な業務に苦闘しているため、高度なテクノロジーのみがこの問題の範囲や複雑さに対処できます。

半数を超える企業が AI と ML を採用し、サプライチェーン計画 (56%)、輸配送管理 (53%)、注文管理 (50%) のパフォーマンスを向上させています。また、80% の企業が AI の中でも生成 AI を導入しています。これらの調査参加者のうち 91% の回答によると、サプライチェーンの工程と意思決定の最適化に生成 AI を活用することが "まあまあ効果的" または "非常に効果的" であることが判明しています。



Blue Yonder の提案： 収益を最大化するための方法 トップ3

Blue Yonder の2024年サプライチェーン・エグゼクティブ・サーベイによる有望な傾向が判明しました。サプライチェーンへの投資のメリットについて質問したところ、上位を占めた回答は、効率の向上 (53%)、売上の増加 (37%)、市場シェアの拡大 (37%)、混乱の減少 (37%)、利益の増加 (29%) でした。

しかし、重要な点を指摘しておく必要があります。すべてのテクノロジーの導入が同じという訳ではありません。

Blue Yonder は、最も能力が高く高度なテクノロジーソリューションだけでなく、顧客の投資利益率を最大化できるベストプラクティスも開発してきました。上記の結果を調べると、

- 効率の向上や売上の増加など、
- 当社とパートナーシップを結ぶことにより、ほぼ100% の顧客がこうしたメリット以上を得ていると自信を持って言えます。

顧客の成功の秘訣とは？

世界をリードするサプライチェーンチームとの経験から学ぶ
高度なテクノロジーの導入を最適化するための3つの重要なポイント

#1

計画と実行の連携
同期化された
迅速な対応の推進

#2

AI と ML による
意思決定の自動化

#3

持続可能性のための
サプライチェーンの
最適化

以降のページでは、3つのベストプラクティスを通じて、高度なテクノロジーを生産的で有益に活用する方法をご紹介します。

ベストプラクティス #1 :

状況の変化に応じて同期化された迅速な対応の推進

多くのサプライチェーンチームは、高度な計画ソリューションや物流ソリューションを活用しています。また、Blue Yonder の調査から明らかのように、多くがこうした機能をすぐに追加する予定としています。

企業の約半数 (49%) が輸配送管理システム (TMS) への投資を計画し、41% は倉庫管理システム (WMS) を導入する予定です。投資対象上位のプランニングソリューションは、販売と経営計画 (幹部の37% が言及)、販売と実行 (37%)、統合需給計画 (34%) です。

個々のテクノロジーソリューションの導入は、すばらしい第一歩です。AI および ML を利用した今日の高度なソリューションは、リアルタイムのデータを取り込み、複雑な分析を実行し、最適な対応を実施できます。

ただし、計画や物流の最も高度なソリューションでも、サイロ化されて分断され、データを共有できない場合、その能力を最大限活用できません。

倉庫や輸配送で貨物容量の条件は変わるため、注文管理ソリューションは、実現不能な契約を顧客と結ぶ場合があります。さらに、計画と物流が連携していないと、予測が劇的に低下しても、新しい在庫が倉庫で追加される場合があります。

サプライチェーンのどこかで発生する混乱は、End-to-Endの業務を根本的に変える可能性があります。84% のサプライチェーンチームが混乱を経験している場合、サプライチェーンは回復力と俊敏性の実現に特化して構築する必要があります。流動性のある単一エコシステムとして協調して機能するように管理する必要があります。つまり、すべてのテクノロジーソリューションを緊密に統合するのです。

状況が変化した場合...

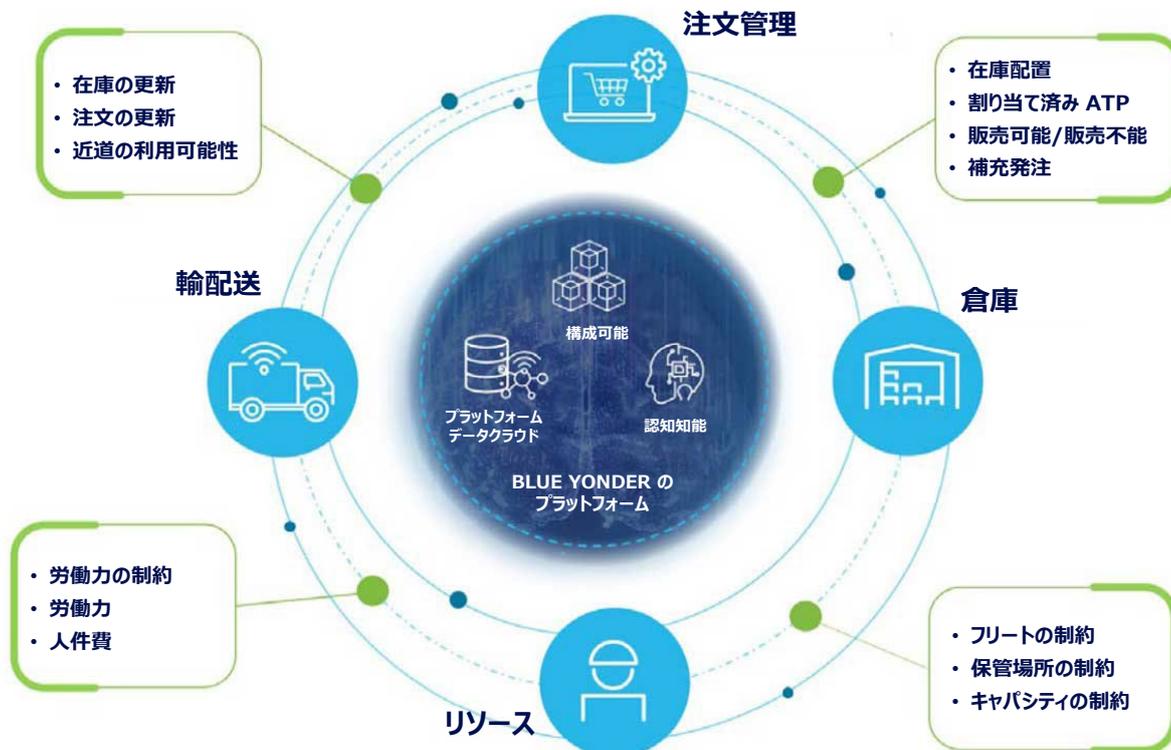


統合データセットを利用し、シームレスなEnd-to-Endの実行ワークフローで接続し、すべてのテクノロジーソリューションをリアルタイムに緊密に統合することは、不可能に思うかもしれません。しかし、Blue Yonder はこれを容易に実現します。Blue Yonder プラットフォームを活用することにより、顧客は、計画と物流の両方ですべてのソフトウェアをリアルタイムに接続し、混乱や例外に対し、迅速な同期された対応を実現できます。

Blue Yonder のクラウドネイティブなソリューションを一元プラットフォームでデジタル接続することで、企業はシームレスな実行と計画環境を作成できます。この環境では、すべての機能が、同じ優先順位、制約、可視性、目標を共有しています。あるソリューションにデータが追加された場合、別のソリューションに即座に表示されます。

たとえば、輸配送コストの上昇が倉庫に記録されると、フルフィルメント計画エンジンは、代替の配送モードを選択して利益率を確保する場合があります。これは、利益率の減少に直面している46%のグローバル・サプライチェーンチームにとって特に重要です。

Blue Yonder によって実現された実行と計画の同期化により、高度なテクノロジーソリューションの代表的なメリット（効率の向上など）をサプライチェーン全体に指数関数的に拡散できます。需要計画予測が変化すると、労働力、倉庫業務、在庫、トラック、その他の資産などの実行リソースは、能力と生産性に合わせて常時自動的に最適化されます。利益率を改善するために、コストは常に考慮されて管理されます。また、満足度の向上と増収のため、顧客サービスレベルが最大限に高まります。



ベストプラクティス #2

AI と ML の適用による意思決定の自動化

ほとんどの人が“サプライチェーンの自動化”のフレーズを聞いたとき、倉庫のピッキングロボットやベルトコンベア、あるいは自動フォークリフトを思い浮かべます。これらのプロセス自動化ソリューションは大きな価値をもたらします。ただし、戦略的な視点から見た場合に重要なのは、AI/ML を利用した意思決定の自動化です。

混乱した世界では、戦略と迅速な対応は不可欠です。Blue Yonder の調査が示すように、混乱がサプライチェーン全体に広範囲に大きな影響を及ぼすことを考えてください。サプライチェーン担当幹部が報告した最も大きな影響は、客先納品遅れ（参加者の 42% が指摘）、生産の停止（42%）、法規制遵守の問題（39%）、評判の悪化と経済的な損害（38%）、顧客の需要を満たせないこと（38%）でした。

対応を同期するために機能の統合は不可欠ですが、TMS、WMS、需要計画ソリューション、その他のシステムの対応方法をどのように把握したらよいでしょうか？そこで AI/ML の登場です。AI、ML、データサイエンス、予測分析、および独自のアルゴリズムを活用した Blue Yonder の最適化エンジンは、最も複雑な問題ですら、解決を自動化できます。幅広いリアルタイムデータをサプライチェーン全体から取得できるだけでなく、ニュースや天候などの外部要因データも取得でき、End-to-Endで連携した解決策にマイクロ秒単位で辿り着けます。

Blue Yonder の業界先進 AI/ML 機能により、サプライチェーンチームは、簡単かつ自動的に、2024年の調査で特定された最大の課題（混乱やコスト上昇など）を管理できます。

市場動向は変化するため、Blue Yonder の意思決定エンジンでは、消費者の購買行動を分析し、物流や在庫計画を自動的に軌道修正します。天候や地政学的事象により、輸配送ルートが閉鎖される場合、Blue Yonder は予測アラートや動的なルート再選択を可能にします。材料不足や輸配送能力の不足は、代替のサプライヤーや輸配送業者の物流網など、事前定義された緊急時対応計画を実行することで管理します。Blue Yonder の年中無休で常時稼働する AI/ML 機能により、どのような混乱が生じても、サプライチェーンがサービス目標や利益目標を達成するために予定通りに進行します。

Blue Yonder の調査では、AI のサブセットである生成 AI への関心の高まりを示しています。生成 AI は、個々のユーザの問い合わせに自動的に応答する予測アルゴリズムに基づきます。Blue Yonder Orchestrator は当社の生成 AI 機能です。これにより、サプライチェーンチームは推奨案と予測的知見にすばやくアクセスできるため、インテリジェントな意思決定を行い、サプライチェーン全体に最高の成果を実現できます。

**Blue Yonder は、
サプライチェーンや物流を
良い方向に変えることを信じて、
生成 AI に大きく投資しています。**

ベストプラクティス #3

持続可能性実現のための サプライチェーン最適化

コストとサービスは、常にサプライチェーンのパフォーマンスを測定するための最上位指標でした。しかし、持続可能性もより優先的な指標になってきています。Blue Yonder の2024年サプライチェーン・エグゼクティブ・サーベイでは、48% の担当幹部が持続可能性を投資の重要分野であると指摘しています。

前述のように、57% の企業がサプライチェーン全体で廃棄物や無駄の削減に重点を置いています。半数を超える企業（55%）では輸配送効率を向上する方策として、燃料消費量の削減、物流網設計や配送経路の最適化、二酸化炭素排出量の低減があります。持続可能性に関するその他の投資分野としては、サプライヤーの持続可能性の向上（46%）、返品プロセスの改善（34%）、包装の削減などの製品技術革新の推進（34%）などがあります。

サプライチェーンにとって最も収益性の高い意思決定は、最も持続可能性に優れていることがよくあります。配送経路を最適化して時間を短縮し、燃料コストを削減し、空荷走行を解消するため、TMSもまた環境への影響を低減しています。

最先端の需要計画アルゴリズムを通じて予測が正確になるため、過剰在庫や廃棄物が自然と最少限に抑えられます。これらは、多くの Blue Yonder 顧客が実際に得てきた大きなメリットです。

さらに、AI/ML を利用した最適化エンジンは、サプライチェーンにとっての最善策を決定するため、持続可能性を重要なパフォーマンス指標と見なすように“調整”できます。意思決定は加重ベースで行われます。その場合、廃棄物やサプライヤーの持続可能性などの目標は、従来の指標に沿って考慮されません。

Blue Yonder は、サプライチェーン全体でのEnd-to-End機能により、顧客が持続可能性におけるベストプラクティスを導入できるよう支援することに適しています。これには、能力とリソースの使用率の最大化、負荷やルート最適化、出荷の集約による走行距離の短縮や梱包の削減、返品プロセスの合理化などがあります。





顧客の持続可能性を重視する姿勢の高まりに対応し、当社は持続可能性ロードマップを作成しています。これは、End-to-Endのサプライチェーン全体で環境に優しい業務を実現する機会に高度なテクノロジー機能を適合させるものです。

Blue Yonder はすでにその顧客の持続可能性目標をサポートしています。Blue Yonder 輸配送管理(TMS)と倉庫管理(WMS)ソリューションを使用してグローバルな物流網を最適化している

顧客は、スコープ3の輸配送による二酸化炭素排出量を40%削減でき、高速道路での走行距離を約1,800万km短縮すると同時に、在庫管理の向上により倉庫の廃棄物を解消しました。

統合ソリューションの使用により、Blue Yonder は、電動車のフリート統合や倉庫の廃棄物削減プログラムなど、革新的なプラクティスの導入を支援できます。また、顧客の持続可能性優先順位に適合するソリューションの構築に注力しています。



 持続可能性データクラウド
  持続可能性とサプライチェーンの統合ダッシュボード
  End-to-Endの二酸化炭素排出量の可視化と予測
  高品質でアクティビティベースのデータ

2024年サプライチェーン エグゼクティブ・サーベイについて

2024年サプライチェーン・エグゼクティブ・サーベイは、Blue Yonder の提供により、2024年3月1日から15日にかけて第三者機関によって実施されました。この調査では、製造、小売、サードパーティロジスティクス、政府機関の経営幹部および上級幹部600人以上から回答が得られました。回答者は、米国、英国、DACH（ドイツ、オーストリア、スイスを含む）、およびフランス/ベネルクス（ベルギー、オランダ、ルクセンブルクを含む）で、サプライチェーン戦略、計画、ロジスティクス、製造オペレーションを担当しています。

貴社の成功に 投資してきた パートナーを お探ですか？

もう探す必要は ありません

2024年サプライチェーン・エグゼクティブ・サーベイの参加者と同様、Blue Yonder は世界のサプライチェーンにおける将来の成功は高度なテクノロジーによること信じ、過去3年間にわたり、次世代 AI/ML などの技術革新に10億ドルを投資しています。サプライチェーンがどこに向かおうと、当社は最先端の機能と革新的な配送モデルによって貴社のサプライチェーン対応を支援します。そして、革新的な配送モデルにより、投資の回収が促進されます。

詳しくは ja.blueyonder.com を ご覧ください。

blueyonder.com

Copyright © 2024, Blue Yonder, Inc. All rights reserved. Blue Yonder は、Blue Yonder, Inc. の登録商標です。その他のすべての会社名および製品名は、関連する企業の商標、登録商標、サービスマークである場合があります。Blue Yonder は、本書に記載されている情報またはソフトウェアの機能、特性、もしくは仕様を予告なく変更する権利を留保します。Blue Yonder は、本書に記載されている情報またはソフトウェアに関して、認定ライセンス所有者との Blue Yonder のソフトウェアライセンス契約で許可されている場合を除き、保証義務を一切負わないものとします。

